

## 会員からのお便り

小生は花き類の栽培技術を専門としています。いろいろな植物の根と出会うたびに種の起源との関係で、根の機能について考えさせられています。鶏と卵の関係もありましょうが、これから栽培研究は理学的側面から根の機能を究明し、これに立脚した栽培理念の構築が不可欠であるとの思いを強くしています。大学の研究に対し、現場を背負った地方農試はここに大いに期待しています。

(栃木県農業試験場花き部 峯岸長利)

私は静岡県農業試験場から今年4月に普及所に転勤しました。農試では花き栽培分野の試験研究をし、花き専門技術員を8年勤めました。研究の最後の頃にはバラ園土壌改良の仕事をしました。専門技術員時代にも、現地普及員とバラの生育・収量と根群環境について調査を進めてきました。ところが、根群と生育・収量がパラレルになる説明がどうしてもうまくいきません。土壌と根群は整合することを観察しています。このようなきっかけから「根研究会」で勉強をしたいと思います。

(静岡県中遠農林事務所 水戸喜平)

私は、当支場の栽培生理研究室において、まだ経験は浅いのですが、スイカの台木に関する研究をしており、根を掘り上げたりすることから、根によるサイトカイニン生成についての生理研究まで行っています。また、高温ストレスによる生育抑制に対する根圏環境の影響についても大いに興味を持っております。研究会に参加して、情報交換したり、ご指導ねがったりできればと思っております。

(農水省野菜・茶葉試験場久留米支場 山崎 篤)

この欄では、折々寄せられたお便りや入会申込みの中から一部を抜粋してご紹介します。「こんなことが知りたい」といった声や、会の運営についてのご意見なども歓迎します。

(研究会事務局)

### 募集

本会誌への投稿を募集しています。ご自身の研究紹介、問題提起、あるいは、学会・勉強会の報告や文献の紹介などを寄せ下さい。あるテーマについて適切な方を推薦して頂いても結構です。

投稿の要領については第2巻第1号(今年3月に発行)の最終ページをご覧下さい。必要な方には事務局より改めてお送りいたします。

関連の集会や出版物の情報、海外からの研究者の来日予定などといった情報も早めにお知らせ頂けると助かります。

### お詫び

今回は9月4日のシンポジウムやその論文集発行に係わる作業の都合で、会誌をお届けするのが3週間ほど遅れました。

次号(12月発行)からは通常通りにお送りする予定です。

(編集幹事)

### 転勤された方へ

10月1日付けで転勤された方もいらっしゃると思います。次号に研究テーマや連絡先も含めた会員名簿を掲載します。年1回の企画ですので、変更のあった方は至急ご連絡下さい。

(事務局)